

「ダイスキノキモチ

はい。いつものひとり言です。ぺらぺら喋るから黙って聴いてください。

……もう飽きた、って顔だな。よしじゃあ簡潔に話そう。

人生に物申す。

ただ生きていてはどうにも退屈だ。

変化を望んだり望まなかったり。

変わってみたいと思うけど、突然に変わるの怖いとも感じる。

だって今は平穩。とりあえず落ち着く場所にいるでしょ。

それが幸せかどうかはさておいて、ほら、たまにはこう、

刺激がほしくなる事もあるだろう。

いつも同じ味付けの料理に、スパイスを加えなくなる時はないか？

ちなみに私は薬味にネギ。味噌汁でも吸い物でも大量の刻みネギを入れる。

フフフ。おいしいよ。毎朝つくってあげようか。フフフフ。

何が言いたいか。結論。……私も飽きちゃったの。

私だけの世界に。私だけの人生に。気まぐれだから。

熱しやすくも冷めやすくもない。汚れないけど輝きもしない人生。

……でもね、それをね、変えてくれたひとがいる。……お前の事だよ？

静かな水面に石を投げ入れる行為、そんなお前。

今から電話かけるから。いい？ いいよね。だってお前、私と話したいでしょ。

その為にさ、ここに來たんでしょ。うん。大丈夫。私も話したいからね。

やあ先輩。ご無沙汰。でもない？ 分かん。全然分かん。

はい今日も頑張っていきましょう。

先輩の意味不明な戯言に、しぶしぶ付き合っていきましょう。

ん？ いや別に。何も嫌じゃないけど？ 嫌だったらそもそも話さないし。

先輩とは話すよ。でも私、先輩の事、離さないから。……ぶふッ。

はなすのに、はなさない……クククッ……あ、ああ、ごめん先輩、ちよっと、

はしたなかったかしら。

いやあの、近頃は些細な事で笑ってしまうんだ。ふしぎしふ。

お前のおかげかな？ 笑顔の絶えない家守です。へへへ。

そうだ先輩。冬、終わりましたね。長かったですね。

一年の大半は寒いですよ。寒いのが苦手だから、あ、でも、この冬は……、

先輩が温かったから、乗り越えられました。あのね、いつもは冬眠してるの。

クマのように……、……笑いどころだぞおい。何だその反応は。

まあいいや。しかし、春か。春。そうだ、進級おめでとうございます。

留年しなくてよかったですね。ふふ。あ、私もでした。いっしょ。

ところで、春の皿には苦味を盛れ、って知ってます？

季節は勝手に切り替わるけど、私たち生き物は苦い食べ物を取り取して、

身体を冬から起こしてやらねばならぬらしい。

冬眠の冗談も、あながち間違いじゃないでしょ？

うつらうつらと眠たいまま、新しい季節を迎え入れたら、万年五月病だよ。

ねえ先輩。苦いか分からないけど、私の事、食べます？

——わっびっくりした。はあ？ ってなんだよ、はあ？ って。

お前になら私、いいぞ。食べていいぞ。苦いか甘いか確かめてみてください。

ひよっとしたら辛いかもしれないね。あ、辛いのは痛覚らしいですね。

……え、なに、震え声でどうしたの。え先輩えっつまさか先輩、

また変な想像してませんか？ 私、文字通り食べていいって言ったただけぞ。

うわー先輩うわーうわー。引くわー。思春期真っ盛りですね、ハハハハ。

いや笑います。笑っちゃいますよ、笑いもんです。ハハハハ。おかしー。

先輩のえっち。まったくもう、いくら私でも怒っちゃいますよ。ぶんぶん。

うーん。お前はいつも面白い反応をくれるけど、なんかこう、たまにはさ、

もっとぐいぐいって来てほしいな。ほら家守ってさ、あんまり声張ったり、

驚いたりしないじゃないですか。ね。まあ何度か、してやられたけど……。

でもあれだぞ。可愛いとか言ってたってな、もう耐性ついたから。

先輩は褒め方がワンパターンすぎるから、

家守・アブゾーバーによってすぐに防御を——

おほッ?! ……ちよ、お、すっ……すすす、……反則です今は反則。

なし。今のはノーカンとさせていただきます。可愛いには耐性ついたけど、

唐突な「好き」……は、慣れません。ぐぬぬ。

わ、私だってなあ、お前が好きだぞ。好き好き。大好き。

どうだ参ったか、てめーこのやろう。……きーっ、むかつく。

あそうだ。大好きな先輩。ちよっとね、サプライズがあるんですよ。

……いや教えませんよ。サプライズじゃなくなっちゃうでしょうが。

と思ったけど、サプライズって言った時点でサプライズじゃないな。

……さぶらいず。ああ、さぶらいず……。

何度も口にしてたら、ゲシュタルト崩壊してきた。

とにかく楽しみにしてて。先輩きつとびつくりするから。へへへ。

じゃあ今日は切ります。ばいばい。

♪アマアイユウワク・前

こんにちは。来ちゃった。ふふ……アポなし。

もう、化物を見たような顔しないでくださいよ。鳩に豆鉄砲って奴ですかね。

びつくりした？ したでしょ？ 分かる分かる。

だって私、先輩から住所聞いてないもん。……でも、知ってたよ？ ふふふ。

あ……でもこれ、昨日言ったサプライズじゃないんです。これは、ね、うん。

ん？ ああ、うん。ほら、どうせさ、

先輩って休日は暇してるでしょ。時間を持て余してるでしょ。

余さないでください。その時間は一片残らず私に費やしてください。なんて。

はは。ていうか先輩、身体大きいね。いつもこうして向かい合う事ないから、

なんか、斬新。だけど安心。よし、会心の一撃をくらえ。

……ぎゅっ。ふふふ。

先輩、温かい。先輩、良い匂い。おいしそうな匂い。……うそうそ冗談。

あ……、もしかして……迷惑だったかな。私、迷惑な事しちゃったかな。

急に押し掛けるなんて真似は、……でも私、先輩に会いたかったの。

……へ、あ、何か、嬉しそうですね。よかった。私も嬉しいです。エへ。

先輩、今ひとりですか。おお、そうですね。ふんふん。

上がっていいですか。

先輩の家、しっちゃかめっちゃかに荒らしたいな。

え、いいの。やった。ありがとう。廃墟にする勢いで上がります。

なあにビビってんですか。乱暴な事しませんよ。私そういうの嫌いだから。

でもね、私、先輩になら乱暴されても嬉しいよ。……顔を赤くするなアホ。

こっちまで恥ずかしくなってるだろ。

それじゃ、お邪魔します。じゃまじゃまおじゃま。

ほーう、ほーう。ふんふん。へー、ここで生活してるの。ふーん。

何か、特徴がないね。退屈でつまらん部屋。まるで先輩みたい。……嘘だって。

スー……ハ……。……ああ……先輩の匂い。

部屋中に先輩の匂い充滿してるんだけど。こういう事なのこれは。

スー……ハ……スー……ハ……。

ねえたぶん私相当おかしくなっちゃいそうなんだけどイイ？(超早口)

どうおかしくなるかは、あえて言いませんが。

……分かりました。じゃあ、おかしくなってきたところで、サプライズ。

はいこれ。

……なにして、バレンタイン。です。……ハイ。……何だよ。

何がおかしいんだよ、おい。あ、時期が遅いとか思ってるでしょ。

それは色々都合があるんです。海より深い事情があるんです。

……それとも形か？ ハート型は変だったか？

なあ、おいっ。私、こういうの初めて、だから、あの。

えっえ、ちょ、本当、ごめんなさい、こんなのやつぱり、ダメ、かな……。

……は？ えなに、え、からかったの？ 私を？ 家守を？

……ぐぬぬぬぬぬぬ。

サプライズで、何で私がびつくりしてるんだよ。

全然予想外だった、うわ、もう、恥ずかし。つらい。

なにお前、いつもの仕返しというわけですか。

……うん、焦った。超焦ったよマジで。私が、私なんかチョコ手作りして、

それを好きなひとにあげるのが、そんなに滑稽だったのになって。

でもよかった。喜んでくれた。じゃあ私も喜ぶか。……ヤッター！

あ、テンション上がってきた。よし先輩、お茶を出してもらおうか。

私どこに座ればいい？　ここ？　よしもうここから動かん。ずっとここにいよ。何ぼーっとしてるの。そんなに見つめないでください。照れます。

ああダメ、やっぱりじっとしてらんない。むずむずそわそわ。

恥ずかしいから、部屋のなか探索しよっと。えへへ、根掘り葉掘り。

先輩の事だ。どうせいかかわしいものでも隠してるんだらう。

しかも今日は、突撃昼ご飯の時間だったからな。隠す余裕すらなかったはず。

本棚、うんうん、漫画本がいっぱいありますね。ほお、こういうの読むの。

小説もあるね。好印象。好きな作家さんとか、いらっしやる？　……ほう。

家守は、寺山修司。ふふ、私の部屋ね、寺山修司みたいになってるんだ。

あのひとは、お風呂場の浴槽が本で溢れるくらいだったそうです。尊敬。

いっそ真似してみようかしら。そしたらお風呂入れなくなるから、

先輩の家のを借りていい？　……一緒に入る？　洗いっこしちゃう？（無声音）

……おお、ドードー、ドードー、落ち着いて。落ち着きなさい。ね。

そんな事しませんって。だいたい浴槽を使えなくしちゃったら、

父親に怒られてしまうから、……そうです、できません。

……ん、まあ、うん、父親ね。はい。

ああ、そう言えば、ひどい事とか、あんまり言われなくなったなあ。

アルコールが入ると、ちよっと口調が荒くなるけど、そのときは近づかないし。

まあ、男手ひとつでさ、私をここまで……生き永らえさせてくれたから。

ただ憎いってだけじゃなくて、感謝もしてる。

でもさ、そういう考え方って、お前とこうして話し合うまではね、

まったくしなかった。いや、できなかったんだよね。

先輩。先輩。お前のおかげで、だいぶ人間らしい思考回路になってきたよ。

人間らしいから、先輩を好きになったし。色々教えてくれてありがとう。

もう一度言うね、ありがとう。これ、心の底から言ってます。

……えへ。あ、チョコ、そうだよ、溶けちゃう前に食べましょう……一緒に。

これね、生チョコなんだよ。ほろ苦さと甘さのダブルパンチ。ふふふ。

あ、家守さ、前からしてみたかったんだ。ほら、あれ、あーんってするやつ。もちろんしてくれるよね。彼氏だもんね。恋人だもんね。……よし。

………はい、あーん♪　……おいしい？　私の生チョコ、おいしい？

ほんとっ？　やった、やった。えへへ、ありがとう。

箱もハートで、チョコもハートで、私のハートもハートだから、

この部屋、ハートでいっぱいですね。胸やけしそう。うう、クルシイ。

……ん？　んん、もう、先輩の欲しがりさん。……好きです。これでいい？

ひあッ。……ちよっ、せんば、お、おおうっ、おおあっ、

ほ、ほっほう、今度は先輩が、さ、ささ、サプライズってわけですかあ。

い、いいやあ？　別にいい？　驚いてないですよ？　マジですよ？

とりあえず離して。いったん。お願いします。

………ふう。……先輩……今、私の中の何かが崩壊しました。

サプライズにサプライズを返した先輩。

じゃあ、チョコの分も返してもらわないといけませんね。……ね？

な、の、で。……チョコは食べるものです。ハグにハグを返したなら、

今度は私が食べる番。……お前の事、いただきます。ふふふふふ。

③ アマイユウワク・後

……なーんてな。

ダメです先輩。いや、いいんですけど、ダメです。

真昼間ですよ。そういうのよくない。だから、ほら、手をつなぐ程度にして。

手、ぎゅ。ぎゅぎゅ。思った事言っている？　うん。先輩の手、アツチツチ。

どうしてこんなに手汗かいてるの。ねえ緊張してるの？　ふふふふ。

……あれ？　あれ、あれれ？　何だろ、この感触。なんか違う。なんか。

ちよっと、ちよっと静かに。黙って。……、……ええ……？　これって……。

えっちよっと先輩、えっえっえっ、もしかして、もしかしてさ、お前さ、

私以外の女の子と、手……繋いだ？　ねえこれ繋いだよね絶対そうだよね。

……分かるよ？　分かっちゃうんですよ先輩。ねえ正直に言っただけなら、

イエスかノーか二者択一。……………へえ？

あーあーあーあーあーあ、……………触るな。手を離せ。……………はああッ……………
やっちゃったね先輩。やっちゃったね先輩。そうなんだふうんへえそうなんだ。
あらららら。先輩、……………私、ずっと信じてたのに。

あー、先輩、あー、私がいるのに、あー、私じゃダメなんだ。そうなんだ。

うわーうわうわうわうわ、あー、殺そう。殺してやる。殺し尽くす。

妖ども、集いたまえ。ここへこい。なぶり殺しにしろ。……………そうだ。

先輩、たぶん見えないでしょうけど、今お前は、囲まれてる。

こいつらは、ウカミといってな。

低級の妖だが、ひとの骨を折る程度の事は出来る。

殺さない程度に、四肢をぐにやぐにやになるまでへし折ったりな。

でも安心して。こいつらは私の言う事を聞く。お前に危害は加えないよ。

血祭りに上げるのは、お前をたぶらかした馬鹿女だ。

それに、とどめは、ひとである私が差すからね。家守の慈悲だよ。

まあ、そのあとは、先輩の目をちよこっといじくり回して、

私しか見えないようにしてあげる。でないとまた、お前を騙す女が現れるよ。

さあ先輩。教えて。誰がこの素敵な手を奪い取ったの。ねえ誰。ねえ。

……………なに、言い訳なんて聞きたくない。

お前はやさしいから、きつとその女の肩を持つんだろ。知ってる知ってる。

私がいちばんよく知ってる。でもそのやさしさを受けていいのは、

私だけなんだぞ。なあ、そうだよな。なあ、……………なあッ！

……………へ。……………うん、……………うん。

えと、そういうもの……………？……………ああ、その、私、先輩しか知らないから。

ふうん、卒業式で……………握手とか、するんだ。

そう言えば、卒業式……………あったね。つまり、世話になった先輩としたって事？

……………へえ。ちよつと、頭貸せ。ほら、こう。私の額とくつつけて。

……………うん、……………ああ、これ、たまに私も見る顔だ。名前は知らんけど……………。

嘘じゃ、ないみたいだな。……………、……………うう。

あ、ご、ご……………ごめん。ごめんなさい。早とちり……………しちゃった。

いやその、あの、ああ、ああ、ちが、そんなつもりじゃ、ああ、ああ。

先輩は、先輩……………は、私の、大切に、一番大切な存在だから、えっと、

不穏分子は排除しないと、というか、あ、違うの。

えっと、怖がらせるつもりなくて。私、あの、逆に私が怖くて、

失いたくなくて、奪われたくなくて、あああ、なにが言いたいんだ、私？

つまり、家守は先輩が好きで、家守だけのものにしたくて、でもそれって、

つまり、つまり、家守は私の都合しか考えてなくて、ああでもそれじゃ私、

ただの自己中……………なんて……………なんて嫌な奴だッ——ふあッ！？

あ……………せんば、い……………？……………なんで、どうして手を、握るんですか。

……………私が怖くないのか？……………そんな平然と、なんで、笑っていられるんだよ。

……………怒らないの？……………怒ってないの？……………怒っていいんだよ？

私、先輩になら何されても嬉しいうって、言っただしよ。だから、怒っていいよ。

……………ああ、ちがッ、何されても言うのは、捨てられたりとかそういう、

そういうのはダメ、ダメダメダメッ。私、泣いちゃう。おもらししちゃうから。

しかし、……………おい、今ここに、先輩の意思はあるのか？

なんでさ、ねえ、もしかして先輩、私の事……………。

お前、あれだぞ。お前はいつだってやさしいが、でも、

私は、やさしくされればいいってものじゃない。怒る時は、怒ってほしいよ。

私、怒られても仕方ない事しちゃった。先輩の、尊敬してるひと、

殺そうとした。今だって、先輩の周りには、いるんだよ。妖が。

こいつらに慈悲はない。私が命令を下せば、すぐにそいつを殺しにくんだ。

まさか、信じてないってわけでもあるまいよ。私がそういう、そういうさ、

力を持つてゐるっていうのは、何となくでも分かっているでしょ。

恐ろしい状況だっているのに、それでも先輩は笑って、私を許そうとしている。

そんなの、ダメだよ。いや、ダメとかそういうの、

私が決める事じゃないんだけど。でも、そんな事されたらさ、

私、わけかんなくなっちゃう。何が良くて何がダメで、先輩が分からない。

せっかく、どんどん分かってきたのに。

無条件のやさしさなんて、ひとでも妖でも、ないよ。一体お前は何なの。

……ああ……。

すみません……帰ります。お邪魔しました。……止めないでください。ちよっと、考えさせて。先輩との付き合い方……分からなくなってきた。止めるな、帰らせろ。……ああ。すみませんね、先輩。……さよなら……。

ヤ・ヒュードロドロ・デート・前日譚

もしもし。家守依知。……お前は、誰だっけ。

なんとなくね、分かる。お前は、私と話すために、会いに来てくれたひと。たぶん、私と住んでる世界は違って、いわゆる現実には生きてるひと。

私も現実には生きてるよ。私にとっては、ここが現実だもの。

でも、家守依知は、境界線が曖昧だから、どっちにも生きてるんだ。

私と話す時のお前も、曖昧な存在なの。不思議な感覚。自分はどっちだっけ、みたいなね、そんな感情が心地好くて、だからこそ私と話すだろう。

家守もそうだよ。……ねえ。……好きだよ。

お前は、お前の人生の時間を、私の声を聴くために使ってるんだ。

そんなお前が、好きだ。でも、嫌いだ。私なんかにも、もったいないって思う。

二も、三も、関係ないな。こうして通じ合えるなら、生き場所なんてものは。

四になれば、本当に会えるかもな。ふふ。いや、何でもない。

ああ、私、先輩の事、再確認できた。やあ、先輩。こんばんは。

……すまなかった。私が勝手に勘違いして、ぎゃーぎゃー喚いて、お前を不快にさせてしまったな。……お前がやさしい理由、分かったよ。

もう大丈夫。大丈夫だけど、お詫びと言っちゃなんだが、先輩、

またデートしましょう。

ほら、この前は、私の提案でさ、喫茶店なんかでコーヒー二杯飲んで。

くそつまらん映画を見て、イチヤイチヤしまくったじゃないですか。

なので、是非とも、また行きましょう。

今回は先輩の行きたいところが良いです。何かご提案くださいませ。

あ、できるなら、おもしろい場所がいいな。わくわくスポット、お願いします。

……ふふ。急に言われても困っちゃう？ 分かる分かる。

明日また、学校で会いましょう。その時までお返事ください。

……先輩。……その、……ありがと。大好き。

5. ユートロドロ・デート

おー、どーもどーも先輩。大丈夫、今来たところ。二時間くらい前かな。

……二時間前って、今とは言わないの？ でもなんか、一瞬だったよ。

だってさ、いても立ってもいらなかったんだもの。

ああ、いいのいいの。本当。私たぶん、待つより待たせる方が苦手。

先輩を待たせるなんて、動悸と目眩と吐血の欲張りセット。イコール、死。

というか先輩、目的地すら聞いてないんですけど。どこに行くの。

駅前の待ち合わせって事は、隣町とかですか。遠征しちゃいますか。

……えー、なんて教えてくれないの。またサプライズですか。

すっかり流行っちゃいましたね。でもまあ、嫌いじゃないよ。

先輩ってば、会うたびに新しい何かをくれたりするから、楽しい。

それじゃ、行きましょう。ほら、腕、組んでください。

先輩の体温、感じさせてください。ぎゅ、です。ぎゅ。ふふふ。

なに照れてるんだよ。ほれほれ、もっと照れますか。ほれほれ。

え、なに。……さあ、何の事かな。いや別に、当ててないです。

当たっちゃうんです。仕方ないでしょ、こういう身体つきなんだから。

はあ、もう、先輩って本当ムツツリですよ。知ってる知ってる。

あ、なにそんな急いでるんですか、もう。照れ隠しですか、それ。

……ああ、電車、着ちやいますね。なるほどね。ここは負けておきます。

さあさあ、どこに連れていかれちゃうんだろう。刹那的に楽しみだ。

ちよっとさ、移動時間どんだけ長いんですか。

もうなんか、全然私達の町と違うじゃないですか。風景が違いますよ。

電車だけじゃなくて、バスまで使うとは思わなかったよ。

ここ、どこです？

……へえ、神奈川なんだ。いやいやいや、県を跨いじゃってるじゃん。なんでわざわざ……今どこに向かって歩いてんですか、これは。

……はい？ え、ちょっと待って。え、え、え、マジですか。マジで？

いや、いやいやいや、言いたい事たくさんあるけど。まずこれ言わせて。

なんでデート先が心霊スポットなんだよ！ マジでワケワカン。

私、わくわくスポットって言ったよね？ 全然わくわくしないよこれ。

というか、なんか前にも、そんな話をしませんでしたっけ。あれ本気だったの？

え、なに、そういう趣味あるん？ 先輩オカルトマニア？

へ、へえー、まあ、い、いいんじゃないかな。はは、ははは。

……はッ？！ べつに、なにも？ こっこの、怖いわけじゃないじゃろ。

じゃろッ？ ちがう、怖いわけないだろ。だってほら私、普段からさ、

変なものたくさん見えてんだぞ。そんな私が、なんて怖がるっちゃーねん。

アホか。先輩アホか。ありえへんって。あああ、母国語が。いや方言が。

あいや私、関西出身じゃないです。というか、そんなのどうでもいい。

えと、えと、あああ。い、いいか先輩、心霊スポットってのはな、

遊びで行くところじゃないんだ。怨念がおんねん。ほら、地元住民だっている。

騒いだり荒らしたり、彼らは迷惑を被ってるんだ。

ひとの怒りと、怨霊の祟りを同時に受けちゃうぞ。

あ？ ああ？ そ、そうなんだ。まあ、橋を渡る程度なら別に、うん、いいか。

うわ、ああ、ここ……？ これが、噂の……「虹の大橋」。

み、湖は、綺麗ですね。宮ヶ瀬湖、ですね。青い。広い。

ひええ。橋の方は……真っ昼間でも、なんかやばいな。変な感じするかも。

……え、いや、見えないです。何も見えない。私、妖は見えるけど、ゆ、ゆゆ、

幽霊は見えないんです。あいつらは、妖とは別物なんだよ。

あああ、何だろ、妖が一匹もない。普段はわずらわしいくらい見えるのに、

どうしてこんな時にはいないんだ。逆に寂しいじゃないか、くそ。

せ、先輩、手を離すなよ。離れたら死ぬからな、……いやお前が。

私は大丈夫だけど、先輩は私が守ってないと、死ぬから。バラバラになるよ。

だから、ゼツツたいに離すな、いいか。よ、よし。

うう……は、橋に、虹が描かれてますね。だから虹の大橋なんだね。

あー、あー、やばい、やばみ。わ、私、心霊スポットは初めてなんだ。

きよ、今日は、天気がいいな？ 車も結構、通るな？ はは、明るい！

なんて素敵なスポットなんだ。ははは。たーのしー！

いひえッ！？ ど、どどどうした、先輩ッ。死んだか？ 死んだのか？

急にほった触るなッ、おもらしたらどうするんだ！ この！

……ほあッ。え、こ、これ、なに。……ほ、ほわいとでー？ って？

あ、ああ、あれか。チョコのお返しかな。なるほど。いやなるほどじゃない。

なんでこのタイミングなの。……まあ、私も妙なタイミングで渡したけどさ。

サプライズにサプライズを重ねるとは……お前もなかなかしつこいな。

……ありがとうございます。少しだけ落ち着きました。

なんか、世の中のカップルが、どんな時にどんな事してるのか知らんけど、

少なくとも私達、ふつうじゃないですね。端から見れば、何やってんのって。

デートで心霊スポット行って、そこでホワイトデーのお菓子もらうとか。

先輩。前から言おうと思ってたけど、お前って、

私に負けないくらい、だいぶおかしい奴だって言われてそうだよな。

私を好きになった時点で、気づくべきだったね。遅すぎたよ。

私は狂ってなんかいないって、家守がいつか言ってただろ。

ここに来て、私、その考えを改め始めてるっばいです。

狂っててもいいんじゃないかって、そう思ってる自分がいたりするんだ。

だって先輩は、私が狂っていいようがないからうが、好きなんですよ。

じゃあもう、そこは気にしない。……うん、私も先輩が好きだ。

こんなハチャメチャなデートで、それを気づかせてくれたのかな。

もしくは、先輩なりに考えた真面目なデートだったのかな。いや、答えるな。

答えは要らないよ。どっちにしたって私は、嬉しいもの。

ふう。生まれも育ちも、良かったなんて言えない日々だったけど、

先輩、お前のおかげで、やっぱり私は幸せなんだ。幸せって言える。言えるよ。

……先輩、大好き……。

……あ、でも、早くここから離れたいです。もう正直に言います。超怖い。

ただ、お前の事は絶対に離さんぞ。死の果てまでも一緒です。
絶対、絶対、絶対……逃がさないから……♪

♪モウノガレラレナイ

……、あ……、……。

……お父さん、おかえりなさい。

あの、……今日も、仕事、お疲れ様。ご飯、できてるよ。……ん……。
こちらこそ、その、いつもありがとう。

……へッ。あ、ああ、デート、楽しかった。う、うん。なんかね、先輩、
心霊スポットでホワイトデー、渡してきた。……ふふ、おかしいでしょ。

……ねえ、お父さん。私、ね、あの、今まではずっと、生まれてきた事、
正直、嫌だった。皆が、私に指を差すから、それが嫌だったんだ。

でも、最近は楽しい。先輩と出会ってから、色々な事を知って、

色々な事を思って、想って、……ここまで、そして今も面倒見てくれてる、

お父さんの存在を、なんだろ、その、ありがとうって。

……ん……私、お父さんの子に生まれて、よかった。

私、これからもね、頑張って生き続けるから。

いつかこの恩を、お父さんに返したいから。

あ。あのさ、お酒……飲んででもいいけど、……ちよつとは控えよう？

……、……うん！

あー先輩。あー好き。あーあー。好き。好きが好きのせいで好きすぎる。

も……う……た……ま……ら……ん。ああ、もう、なにもう、ああもう、好き。

先輩のおかげで、何もかも前向き。まえまえむきむき。ふっふふふ。

悲しみひとつも残さずに、笑って生きていたい。

これは、誰の言葉だったっけ。

きつと、た……く……さ……ん……の……ひ……と……を……救……っ……て……る……誰……か……の……言……葉……だ……。

私も、先輩に、お父さんに、笑って生きていてほしいから。

この命が終わるその時まで、私は、言葉を吐き続けよう。
それが、家守依知の、生まれた理由で……生きる理由。
なあ？

発狂少女に告白したら、もう逃れられない。

そうだろう？ 聴いてるお前に言ってるんだ。お前だぞ、お前。

ありがとう。これまで、これから、家守依知は、お前のそばに居続ける。

辛い時も、悲しい時も、私はお前を見るから。ひとりじゃないから。

ひとりじゃないを教えてくれたお前なら、分かってくれるだろう。

今度は、私が教える番だよな。

ねえ、……抱きしめてもいいか？

(終)